臺灣日日新報　昭和十八年二月二十二日（月曜日）　第一万五千四百三十五號　（一）
（第二期）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣新報

本日四頁　定價金拾錢

沙市南昌方面の作戰

醜態、敵司令逃亡

將士の勞苦言語に絶す

報道班談長班

蘇淮區の主力殆ど殲滅

殘敵戰意なく東遁西走

新四軍の命脈迫る

凄絶なる殲滅戰展開

長江北岸に戰果甚大

決戰議會の眞價發揮

提出議案最後仕上へ

自然休會は二月三日頃

敵蠢動の機先制し

和平地區擴大の成果大

敵四箇師を完全潰滅

揚子江畔の第六戰區

メラウケを又爆撃

殘額あと五十億

貯蓄特別計畫で必成

禮砲を一發

悲愴・重巡シカゴの最期

共榮圈鐵鋼需給の恒久對策を樹立

明吉商務局長

アトラス山脈に激戰

米軍敗走、捕虜三千以上

樞軸軍戰果を擴大

南日本漁業會社

臺灣水產愈よ設立

北京中の星野課長語る

日本大學法文學科

文部省發表（二月廿四日）

生活必需品消費規正

南方交易論

南方地政論

婦人倶樂部

春の編物

洋裁講座

和服裁縫

もんぺさん

丸善の文房具

第一生命の決算好調

戰爭へ狂奔する敵米國を語る

一切を擧げて"戰爭へ"
見よ！"米"の斯の敵愾心

御留學生活を送つた
春見二三男氏

慣れてもあまりある程相共同の仇敵米英撃滅戰は益々熾烈化せんとする秋、動かざる航空母艦として益々その使命且つ大となりつつある本島の六百萬島民はもつと〳〵米英を識り心の底から敵愾心を呼び起さねばならんですョ……と語る人は昨年野村、來栖駐米特派大使等と交換船でニューヨークから歸朝し、此の程三井物産會北支店總務課長に轉じて來た春見二三男氏である、恰も野村前駐米大使が、講演行脚の爲め來臺、大將を迎へた感激を取めて話る（寫眞は春見氏）

支那で一儲け
ルーズベルトの祖父

民族といふものは恐ろしいもので……と述懐するのであるが、都合のよい事ばかり、敵米人間關係へ、敵米人間關係へ、ルーズベルトと云ふ人は生れ乍らにして支那に關係を持つてゐるのです、彼の祖父は支那で一儲け、日米その手段となり、國と、そも〳〵彼は御留學生活を送つた大正末期から昭和の初めにかけて、日本の大學教授等と交換船で歸朝した人であるが、その間に支那各地を旅行して廻つたのであるが、その時の感想を次の如く語つた

"日本の手段となり、國と、そも〳〵彼は御留學生活を送つた大正末期から昭和の初めにかけて、日本の大學教授等と交換船で歸朝した人であるが、その間に支那各地を旅行して廻つたのであるが、その時の感想を次の如く語つた

宣傳に狂奔
笑止、この事實を見よ

米國の敵愾心は相當なもので、ニューヨークの地下鐵の中の廣告を見ても米英人の團結を呼びかけるポスターが澤山貼つてある、又ラジオの宣傳も非常なもので、ニューヨーク市内だけでも一日に數十回も聽かされる、ラジオの宣傳は主として米國の參戰は當然であるとの事を力説してゐる、又ニューヨークの地下鐵の中の廣告を見ても米英人の團結を呼びかけるポスターが澤山貼つてある、又ラジオの宣傳も非常なもので、ニューヨーク市内だけでも一日に數十回も聽かされる、ラジオの宣傳は主として米國の參戰は當然であるとの事を力説してゐる、又

眞珠灣攻撃に
保へたした大統領クン

日のルーズベルト大統領の祖父であつて、彼の祖父は支那で一儲けしたことが動機となつて日本に關する記事を讀むと、日本人の事ばかり書かれてゐるので、日本人と共通して感情を害してゐるが、それは日本人の方でも同じ事で、日本の新聞を讀むと、米國

戰ひは勝抜くのだ これから血で汗で

野村前駐米大使獅子吼

昭和十六年十二月七日米國の對日最後通牒を受けつゞけられたあの日あの時駐米大使ルーズベルトに會見「日米の見方を話したいところだ」と申入れ、「日米の平和時代から國民の信頼を受けていた野村吉三郎大使は、"日米はこれからだ"と二十一日午後三時ワシントン發の電波に乗せて、「日米國交調整の爲に最後の最後まで努力した經過を述べた」――此の夜歸朝の途に就き、翌十二日午後七時半横濱に着いた野村大使は、直ちに記者團と會見、「日米國交調整の爲に最後の最後まで努力した經過を述べた」――此の夜歸朝の途に就き、翌十二日午後七時半横濱に着いた野村大使は、直ちに記者團と會見、「日米國交調整の爲に最後の最後まで努力した經過を述べた」

今次歐洲に國の榮つた歴史的の戰爭を始める前に自分の親友ルーズベルト大統領を説得する爲に、私は同じ米國に遣る所りに使命を果たすに當つて、私は同じ米國に遣る所りに使命を果たすに當つて、私は同じ米國に遣る所りに使命を果たすに當つて

英靈故山に凱旋

廿一日戰友に抱かれ高雄着

（高雄特電）陸軍に現役兵として入營し、南支に大活躍の後、病を得て内地に送還され、高雄陸軍病院に入院加療中であつた故陸軍伍長勳八等功七級　故　伍長　高橋　正雄君の英靈は、廿一日午後一時高雄驛着の列車で、戰友の手に抱かれて、故郷に向つた

飛砂走石の荒野も今は立派な防風林

新竹州で昔を偲び座談會開催

からお伺ひします

△新竹州内の防風林は、總延長百二十餘粁に及び、その二つとして他の防風林に關係ある人々が一堂に會して、昔を偲び、今を語り、將來を策するといふ座談會を開いたことは、恐らく本島はもとより、内地においても、その例を見ないことであらう

△新竹州